

1. 対象製品

外部物干し金物(腰壁付けポール上下式タイプ) 略称：CjK 物干し金物

2. 標準(共通)化の部位

外部物干し金物(腰壁付けポール上下式タイプ)の標準(共通)化の部位を図1に示す。

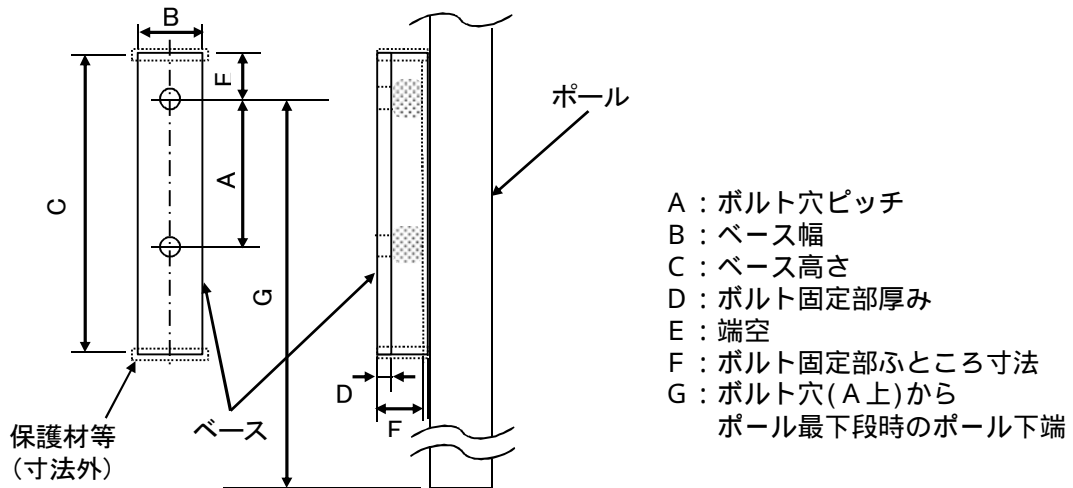


図1 - 標準(共通)化の部位

3. 寸法・形状

外部物干し金物(腰壁付けポール上下式タイプ)のベース標準寸法は、表1に示す3種類とする。

表1 - 各部位の寸法

単位：mm

項目			
A：ボルト穴ピッチ	1 2 2 A 1 2 6		
B：ベース幅	4 7 . 4		4 1
C：ベース高さ	2 1 5	2 7 5	2 4 5
D：ボルト固定部厚み	4 . 5		
E：端空	2 9 . 5	3 2 . 5	2 9
F：ボルト固定部ふところ寸法	3 0		
G：ボルト穴(A上)からポール最下段時のポール下端	7 9 3		

ボルト穴(A下)の形状でボルト穴ピッチは全ての範囲に対応可能であること。

4. 表示方法

- ・印刷物・電子媒体などに、当該商品が長期使用対応部材であることを表示する。または、"CjK" マークを表示する。
- ・製品への表示は任意とし、表示を行う場合は、梱包又は製品に長期使用対応部材であることを表示する。または、"CjK" マークを表示する。

5. 特記事項

5.1 躯体側の取付け面

表1のB：ベース幅、C：ベース高さの本体が取付けられるボルトに対応した台座(解説6.3)または、スペースがあること。

5.2 標準取付高さ

床からボルト穴(A上)は800mm以上とする(解説6.5)。ただし、取付高さを800mm未満とする場合は床とポールが干渉しない取付高さとする。

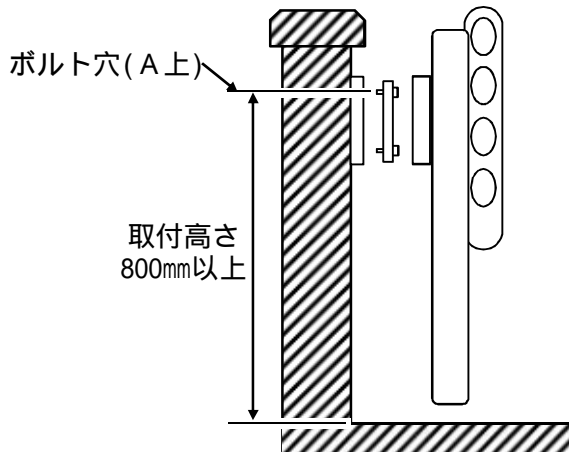


図2 - 取付高さ

5.3 ボルト穴径(A)

M 8 ボルトに対応できること。

5.4 ボルト穴の位置

幅方向に対してセンターに位置すること。

5.5 ボルトの出寸法

最大4.5mm(D)の厚みの固定に対応すること。また、取付け面からの雄ネジ出寸法は30mm(F)以下とする。

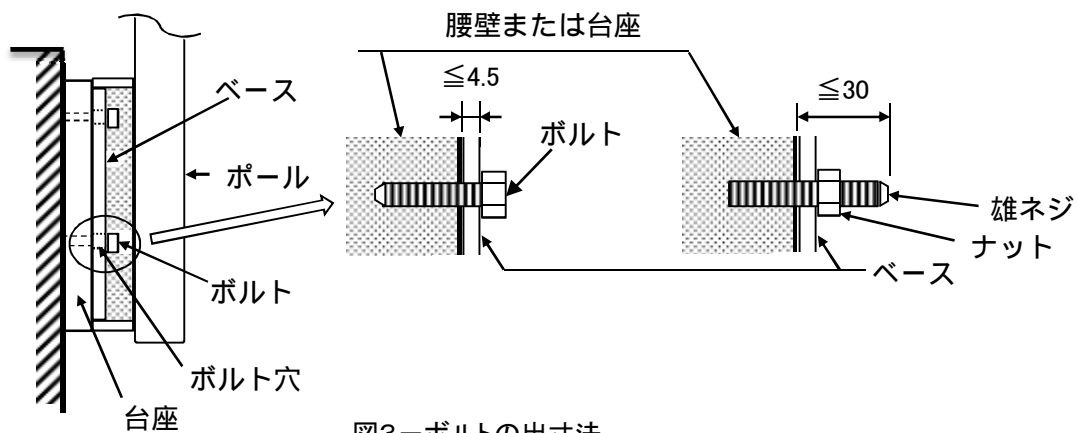


図3-ボルトの出寸法

6 . 解 説

6.1 交換時の注意点

- ・アームの竿掛穴位置、使用角度やポールの上下の可動範囲が異なる場合があるので、左右セットで交換する事を前提とする。
- ・ポールと笠木・手摺や躯体との干渉がある場合は、スペーサー等の使用で調整する。(図4参照)

6.2 台座使用を前提

台座使用を前提とし標準化をおこなった。腰壁に直接取付けた物を交換する場合は、既存の取付け穴を埋めて位置をずらすなど固定強度が落ちないように配慮する。

6.3 台座の定義

腰壁に固定され、物干し金物を取り付けるためのM 8 ボルトが出ている若しくは、M 8 ボルトを締め込む等ができるもの。(図4参照)

6.4 材質について

物干し金物の材質については問わない。

6.5 標準取付高さ800mm以上の理由
表1のG寸法793mmを鑑み800mm以上とする。

6.6 安全対策について
交換後、足掛かりにならないように配慮する。
(図4参照)(旧公営住宅建設基準第36条参照)

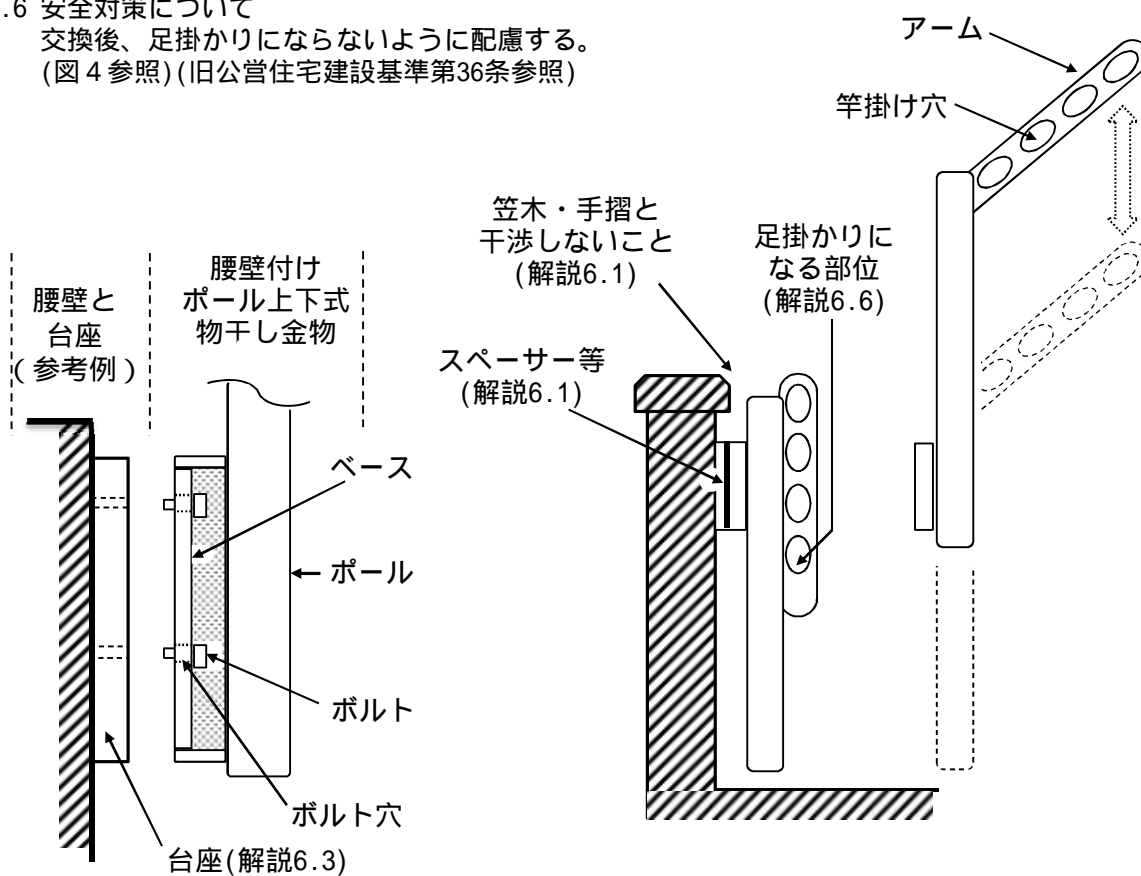


図4 - 物干し金物各部位の例

7. 共通事項

7.1 寸法について

寸法は基準値を示し、公差・許容差を表すものではない。

7.2 交換について

交換については、専門知識を有する者が行うことを推奨する。

注記 専門知識を有する者とは：専門的知識、技術、経験を有する者である。